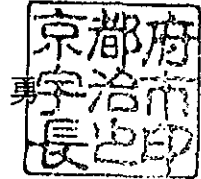


20 宇建道第167号
平成20年10月17日

国土交通省道路局長 様

宇治市長

久保田



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼の標記のことについて、別紙のとおり回答します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

京都府宇治市

- 大都市に比べて地方の道路整備はまだ課題が山積しているという現状から、地域の実情を踏まえ整備対象を弾力化し、地方の裁量権を高め、整備効果の高いところについて優先的に対策を実施。
- 歩道の設置や交差点改良等の市民に身近な生活関連道路の再整備や既存ストックの維持補修も重要。
- ボトルネック踏切や駅等の改良に当たっては、従来からの連続立体交差等のハード的な事業に加え、賢い踏切のようなソフト的な対策の検討が必要であるとともに、事業実施に当たっては鉄道事業者との協議の迅速化や簡素化といった仕組みの検討が必要。
- 道路整備と既存道路ストックの計画的な修繕・更新を地方が主体的に行えるよう、地方道路整備臨時交付金の拡充と適用範囲の拡大。
- 分権社会における地方の自主財源の確保の観点から、産業拠点地区内の道路整備や広域幹線道路網とのアクセス道路の整備が重要。

②-1 地域の現状と抱える課題

京都府宇治市

○現状

市内には公共交通機関である JR 奈良線、近鉄京都線、京阪宇治線、京都市高速鉄道東西線の 4 本の鉄軌道と 14 の駅、そして国道 24 号、府道城陽宇治線、京都宇治線、宇治淀線等の幹線道路が都市交通の要として機能していますが、これらの交通施設は主に南北方向の交通流に対応しており、宇治川による市街地中央部の分断等地形的な条件もあいまって南北方向に比べ東西方向の交通網に弱い都市構造となっています。さらに、これらの幹線道路を含め主要な道路は、ほとんどが 2 車線以下で幅員も狭く、歩道の整備や交差点改良も進んでいない状況に加え、上記の鉄軌道とほとんどの場合が平面交差となっています。

○課題

左記の現状により、著しい交通渋滞の解消や歩行者の安全確保が大きな課題となっております。

また、宇治市域周辺では、京滋バイパスの延伸、京都第二外環状道路、第二京阪道路等、広域幹線道路網の整備が進み、また、第二名神高速道路の早期整備も望まれるところですが、これらと市内の産業拠点地区のアクセス道路の整備も産業振興の観点から課題となっています。

②-2 地域の目指すべき将来像

京都府宇治市

道路の機能を明確にするとともに、道路の持つ役割や交通需要に応じた整備を推進し、幹線道路については、交通渋滞の解消及び周辺都市や市内各拠点の連携を強化するため、東西交通網や広域幹線道路へのアクセス道路の整備、ボトルネックの解消等国や府との連携を図りながら、重点的、継続的に整備を進めるとともに、幹線道路に通じる補助幹線道路の整備を推進する。

地域に密着した生活道路については、歩行者の安全とうるおいのある道づくりを推進するとともに、高齢者や障害者などが利用しやすいよう道路のバリアフリー化や歩行者・自転車の安全性、快適性の向上を図るため、歩道の整備を進める。

また、計画的で効率的な道路維持管理を進めるため、橋梁等の長寿命化計画の策定や長期計画に基づく道路の再生に努める。

本市における主要な事項

○生活幹線道路ネットワークの形成について

通勤や通学、買い物や救急医療等の日常生活上での支障の程度を考慮して、日常生活に密着した生活幹線道路の整備においては、歩道の整備や交差点改良等地域事情に応じた弾力的な道路整備手法の導入を推進

- ・対策メニューの拡充として、歩道幅員の弾力化、道路側溝の暗渠化、路肩・交差点のカラー化、防護柵の設置
- ・世界遺産や文化遺産を持つ地域等では景観を活かし、景観に配慮した道路空間の整備

○渋滞対策について

地域の実情を踏まえ、混雑の発生頻度等に応じて、効果の高いところから優先的に対策を推進

- ・バイパス整備、交差点改良(簡易な右折併用レーンを含む)、駅広整備等交通結節点の改善による公共交通利用の支援、信号の高度化の支援
- ・踏切対策として、連続立体交差事業に加え、賢い踏切等の速効対策の推進

○通学路の歩道整備について

歩道の無い道路や歩道が狭く段差のある箇所のうち、多くの児童が利用するなど、事故の危険性の高い通学路に対して安全性の向上を図る対策を推進

- ・歩道の整備、路肩のカラー舗装や防護柵の設置、既設歩道の段差解消等の対策を推進

○踏切の安全対策について

歩行者や自転車がも多く、歩道が狭くなっている踏切に対して、拡幅改良など安全対策を推進し、事業実施に当たっては鉄道事業者との協議の迅速化や簡素化といった仕組みの構築

○日常管理や橋梁等の修繕・更新

既存道路ストックの老朽化により今後見込まれる維持管理や更新費用の増大に対応し、適切な維持管理を実施するため長寿命化計画の策定を行い、計画に基づく実施が必要

○バリアフリー化について

高齢者や障害者等が日常生活又は社会生活において利用する駅や官公庁等の施設を結ぶ道路及び駅前広場に対して、集中的にバリアフリー化を推進

- ・既設歩道の段差解消、勾配の改善、視覚障害者誘導用ブロックや案内板の設置等により、安全な歩行空間及び円滑な乗継を確保

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

京都府宇治市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・都市交通の快適性、利便性の向上 ・総合的な交通安全対策 ・少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成 ・良好な生活空間・自然環境の形成 ・計画的・効率的な維持管理や更新の推進	バイパス整備（市道宇治槇島線、府道宇治淀線） 駅前広場整備（近鉄大久保駅前広場整備） 踏切改良（宇治国道踏切、向島第5号踏切等） 交差点改良（府道京都宇治線黄檗交差点、府道宇治淀線一里山交差点等） 歩道整備（市道宇治五ヶ庄線、大久保21号線等） 既設歩道の段差解消等のバリアフリー化、側溝整備、舗装補修等市民に身近な生活道路の整備を推進	・交通の分散化による交通渋滞の緩和がもたらす様々な直接・間接的な効果（走行時間短縮、通勤・通学・買い物等生活圏の拡大、定時性確保の観点から公共交通の利便性が向上、救急活動の円滑化、環境負荷の低減等） ・歩行者・自転車利用に対する安全性・快適性の向上 ・地域間の交流・連携の強化 ・災害時におけるリダンダンシーの確保等防災機能の向上 ・世界遺産や文化遺産を持つ地域等への観光客の利便性向上 ・交通結節点における、公共交通機関等の乗換えの円滑化による利便性向上 ・既存道路ストックの高齢化において、今後見込まれる維持管理や更新費用の増大に対応 ・バリアフリー化や安全な歩行空間の確保	

参考図

